

「らしさ」輝く附属小



第20号 令和8年 9月25日(金) 校長 森内 秀学

学校の 自慢の一つは 保護者です

昨日の朝のことです。信号が青になったので、いつものように交通指導に立とうと、学校前の横断歩道を渡っていました。すると、「おはようございます」と、立ち止まってあいさつをする子どもがいました。信じられないでしょうが、普段、我々職員や守衛さんからの朝のあいさつにオウム返しをする子どもはいても、自分からあいさつをする子どもはほとんどいません。ましてや、横断歩道上で立ち止まってあいさつをする子どもなんて、見かけたことはありませんでした。これが、本校の課題の一つ、あいさつの現状でした。

それが、連休明けの昨日、どうして急に、こんな素敵な子どもが現れたのでしょうか。

私は、「先週金曜日に出した学校だよりを読んで、保護者の方が指導してくださったに違いない」と思いました。そして、「こういうところが附属の保護者のすごいところなんだよ」と、職員に話をしました。

保護者の方にとって、学校の考えを知る機会というのは、そう多くはありません。ですが、そのわずかな情報から学校の意をくみ取り、足並みそろえて指導してくださるというのは、本当にありがたいことです。子どもが、迷わず前に進むことができるからです。

そうした保護者がとても多いというのは、本校の大きな自慢の一つです。

横断歩道上で立ち止まってまであいさつを交わし合うのは少々やりすぎですが、明るいあいさつで気持ちが通い合うって、やっぱり素敵ですよ。こんな風景が本校の当たり前になり、やがて文化になるまで、手を携えて一緒にがんばりましょう。



シリーズ：専科の仕事を見ませんか～その③

久しぶりの専科シリーズ。今回紹介するのは、図工専科の昆 正子先生（左）。これは、5,6年A組で、写真奥の5年生に版画、写真手前の6年生に絵画の指導をしている場面です。黒板に提示している版画のお手本の、数も質もさすがですが、手前の黒板にも、絵画に関する資料が、同じように提示してありました。

昆先生は、バランスや角度、光や影の指導を論理的に細かく行うので、子どもたちの、自分の作品に対する満足度が高いのが特徴です。何せ、自分でも日頃から創作活動に取り組む芸術家。そんな先生から図工を教わるなんて、子どもたちは幸せですね。